



怖い・怖がるその気持ちは



立派な成長の証!

怖いという気持ちは、身の回りの知識が構築されて定着してきた証拠です。まさに成長の証! 子どもが怖がると「情けない」と思う大人もいますが「しっかり成長しているんだ」と感動し、喜んでください!

コツがPOINT!



1 怖いものの正体を知ろう!

保護者は子どもが「怖がる」ことに苛立ちを覚えますが、ぐっと抑えて、視線を合わせ、手をにぎり、「何が怖かったの?」と優しく聞きましょう。そして、その怖いものの正体を実験したり、調べたり、考えたりして、自分で確かめてみましょう。

2 怖い気持ちを丸ごと受け止めよう!

怖いときに無理強いして「怖くないよ」と子どもに言っても子どもの心は晴れません。怖いものに対しては、子ども自身で解決する為に、大人は少しのお手伝いをしてあげる程度に考えておきましょう。保護者は「そうか、怖いんだね」と理解するだけでいいんです。



3 怖い定義は、大人がつくる!?

象は、動物園で見ても襲ってこないし、お母さんは可愛いと言っているから怖くない。虫は、お母さんが汚い、気持ち悪いと嫌がるから嫌いだし、怖いもの。

・・・と、子どもにインプットしていませんか? 子どもの中の怖いかわくはないかの定義を大人や社会が作っていることも!

